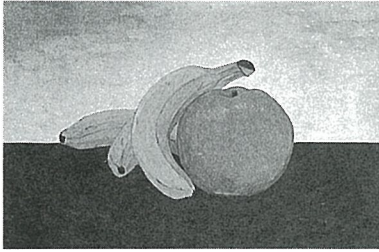


※梨とバナナの色の出し方を工夫して、立体感を出してみました。

1年1組
渡邊寛子さん



静物画
『梨とバナナ』



2年4組
伊藤竜美君



堆朱『キーホルダー』

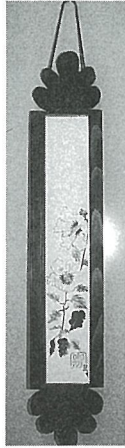
※堆朱は初めて
でよく知らな
かったが、や
つてみるとと
てもおもしろ
かったです。

あつまれ みんなの力作



2年2組
實川良子さん

※まわりの木と
水墨画の濃淡
を出すのを工
夫しました。



水墨画とてん刻『花』



木彫『楊子入れ』



3年3組
押尾和宏君

※中学校最後の
作品なので丁
寧に作りまし
た。羽や花弁
の重なり方を
工夫しました。



シルクスクリーン
『自分のシンボルマーク』



3年1組
宮本 潤君

※細かい部分が
とても多くて
難しかった
が、気に入っ
た作品になり
ました。



中学校

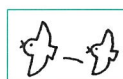


1年3組
林 陽都美さん

※削るのがけつ
こう難しかつ
たが、花びら
が落ちるとこ
ろがよくでき
ました。



アートガラス『花とりんご』



ひかり俳壇



越川せつ子(篠本)

笑み交す農婦の頬に春の泥
畑打それとも畦塗りであろうか。
農業に生きる農婦の爽やかな笑顔
が何より美しい。

山崎 てい(二又)

春泥を落して店の客となり
公序良俗の言葉は死語となった今、
身嗜が慣性となった然りげない行
為に心暖まる。

伊藤 幸枝(尾垂)

留守番の独りに広き春炬燵
卓袱台代りとなった春の炬燵、中
七の措辞は帰省子などで賑った日
への感慨でもある。

椎名 静子(二又)

文庫本佳境に入りて猫の恋
伊藤 定男(尾垂)

川島 重一(尾垂)

春泥や留守に客あり靴の跡
流弾を浴ぶ春泥の痴話磔
鈴木とし子(宝米)

評者吟
春泥を跳び損じたり腰老ゆる

短評
椎名しげる